愛知県自然環境保全地域

伊熊神社社叢

愛知県

愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみではなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として、国においては昭和４７年に自然環境保全法が、愛知県においては、昭和４８年に自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、将来にわたって保全しようとするものです。

伊熊神社社叢の自然

伊熊神社社叢は、東加茂郡旭町の南部に位置し、標高約５６３ｍの小高い山の頂にあります。

三河地方の山地はスギ、ヒノキの植林がすすみ、ほとんどが人工林でしめられていますが、伊熊神社社叢は、このような林と違った林相をしています。それは、この神社の来歴から考えてみると理解することができます。

伊熊神社は、当時の社殿は焼失してしまいましたが、白鳳年間創建の龍雲山二井寺に遡るといわれます。

信仰の対象である社寺林は、昔から聖域として人手を加えることがなかったので、自然の状態をよく保ち、現在に受け継がれてきているのです。伊熊神社の社叢もその一つで、この地方の自然植生を知る手がかりを与える森として、学術的にも大変貴重なものとなっています。

モミの巨木

伊熊神社社叢の植物

伊熊神社の社殿周辺にある斜面の林は、うっそうと茂り、自然林の様相がみられます。林のつくりは、葉を広げる層がいくつかみられる、層状の構造をしています。一番高いところで葉を広げているのが高木層、その下が亜高木層、さらに下、２～３ｍのところに葉を広げているのが低木層、地表面を覆っているのを草本層といっています。

社殿の周辺の自然林の構造は、高木層にシラカシ、アラカシなどカシ類の常緑広葉樹の大木に混じって、モミの巨木もみられ、針広混交林となっています。この社叢には数本のモミの巨木がみられ、根まわりはいずれも約５ｍ、高さ３０ｍ程のすばらしいものです。その他、この林には、イヌシデ、コアサダ、トチノキ、ホウノキ、ヤマモミジ、ウワミズザクラなど落葉広葉樹の大木も混生しています。

木にからみつく暖帯性のつる植物　キジョラン

やや暗い林床に生育するモミジガサ

亜高木層には、ユズリハ、カゴノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなど暖帯性の常緑樹で占められておりますが、林縁には葉の上に花をつけるハナイカダもみられます。

日の差し込む林縁の高木や亜高木につる性の植物が絡みついています。ビナンカズラ、テイカカズラ、オオツヅラフジなど暖帯性のつる植物と、県下では珍しいキジョランも見かけます。林床の草本層には、ヤブミョウガ、ウバユリ、ヤマホトトギス、ウワバミソウ、オニルリソウ、シラヤマギク、キッコウハグマ、ツルリンドウ、アキノタムラソウ、オトコエシなど、それぞれ道沿いの明るい林床、やや暗い林床と種ごとに生育環境の違いをみせています。分布上珍しいマネキグサも山麓の山道入口付近に群生しています。その他、県下で少ないフタバアオイや温帯性のユキザサが一部でみられ、温暖両系の植物で、この社叢の植物相を豊富にしています。

伊熊神社社叢の陸貝

昭和５０年頃には、ゴマガイ、ヒダリマキゴマガイ、ミカワギセル、ツムガタモドキギセル等の十数種の陸貝が生息していました。特にツムガタモドキギセルは西三河で初めて生息が確認されたことで重要でした。その後、他のところでも見つかりましたが、分布の西限として依然として大切な価値があります。

伊熊神社社叢の昆虫

近年の一般的傾向としてどこも昆虫相は減少しつつありますが、この社叢は未だ豊富な昆虫相を示しています。特にキアゲハ、カラスアゲハ、コミスジ、キチョウ、スジグロシロチョウ、クロヒカゲ等のチョウ類が多数見られます。秋に優美な飛び方をするアサギマダラも多数発生して目を楽しませてくれます。このチョウは渡りをすることでも有名です。

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。
自然保護憲章より

県下で珍しいマネキグサ

葉の上に果実をつけたハナイカダ

林床にみられるヤブミョウガ

道ぞいにみられるヤマホトトギス

ツムガタモドキギセル

アサギマダラ

愛知県伊熊神社社叢（いくまじんじゃしゃそう）自然環境保全地域の保全計画

（昭和52年4月22日指定）

指定理由

当該地域には、県内稀産の野生植物や植物地理学上価値の高い野生植物が密度高く生育するとともに、西限の種である陸貝も生息している。

また、三河奥地の代表的な植生であるモミーカシ類を主とした暖帯、温帯の両植生を併せもつ針広混交の天然林が極相状態で成立している。

しかしながら、当該地域も開発の進展に伴い、次第に人為の影響を受けつつある。

したがって、当該地域のすぐれた自然環境を保全するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第２０条第１項第４号の植物の自生地及び野生動物の生息地として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

保全計画

1　保全すべき自然環境の特質

（1）植生

カシ類を主体とした暖帯性植生に、針葉樹のモミ、落葉広葉樹のコアサダ、ウワミズザクラ等の温帯性植生を混じた針広混交林が極限状態で成立している。その構成種に県内稀産の種や植物地理学上価値の高い種が密度高く自生する。

樹木では、コアサダ及びウワミズザクラが県内稀産の種である。特にコアサダの数株は、胸高囲２.５メートルほどの巨木となっており、このような巨木は、県下に例をみない。

草本では、稀産種のものとして、フタバアオイ、トウゴクサバノオ、ユリワサビ、マネキグサ、ケヤマウツボ、モミジガサ、ナベワリ、ユキザサ、サカネラン及びキジョランが自生する。

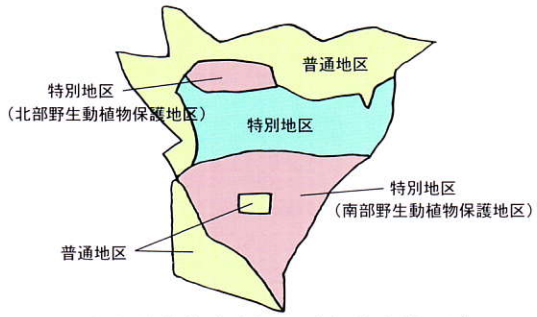
（2）野生動物

陸貝のツムガタモドキギセル及びミカワギセルが生息する。

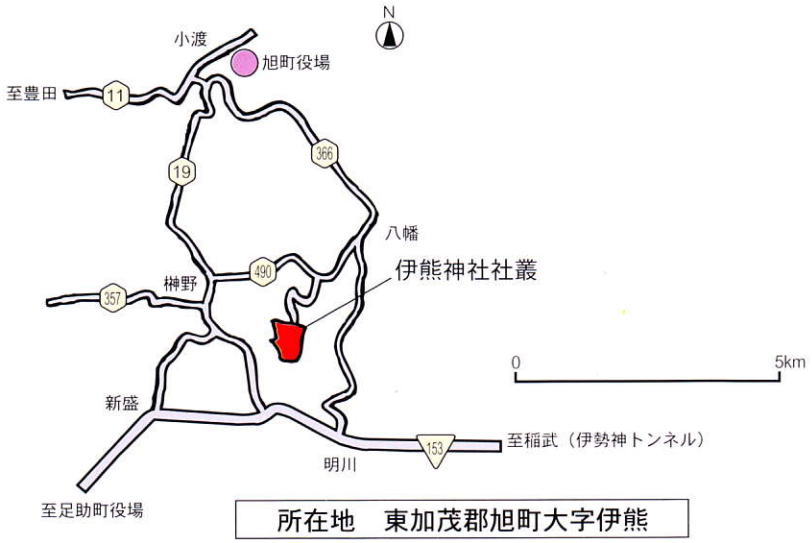
陸貝のツムガタモドキギセルは、分布の西限に当たり、本県における貴重な生息地である。

2　面積

特別地区	うち　野生動植物保護地区	普通地区	合計
2.63ha	(1.49ha)	2.12ha	4.75ha



伊熊神社社叢自然環境保全地域区域図



所在地　東加茂郡旭町大字伊熊

問い合わせ先

愛知県環境部自然環境保全室
名古屋市中区三の丸3－1－2
電話（052）961－2111（代）

愛知県足助事務所林務課
東加茂郡足助町大字足助字陣屋跡19－3
電話（0565）62－0501（代）

旭町産業課
東加茂郡旭町大字小渡字船戸15－1
電話（0565）68－2211（代）

愛知県

※このパンフレットの作成にあたり浜島繁隆氏（市邨学園　高蔵高等学校長・県自然環境保全審議会専門委員）及び原田一夫氏（県自然環境保全審議会専門委員）のご協力を受けました。

平成９年３月発行　2,000部